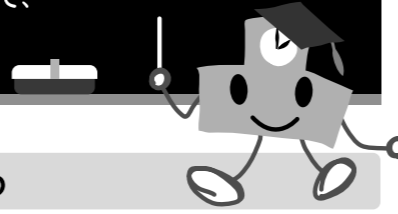


「牛乳パック早開き大会」開催。ゲーム感覚を取り入れ、楽しくリサイクル。

大会形式で牛乳パックリサイクルを楽しく実施。環境意識の向上に加え、学年間の交流やクラスの団結などの効果も。6年生が1年生に開き方を伝授するなど全校で取り組むことで、低学年にも意識が自然に根付く。



内容 学年間交流にクラス団結 学校が盛り上がる

本校では、牛乳パックリサイクルの活動から、異学年間コミュニケーションやクラスの団結を強めるような取組が行われている。

牛乳パックのリサイクルは、洗って干して開き、100枚束にして収集するが、このやり方を毎年6年生が1年生に教えるなど、異学年間での交流の機会となっている。

また、クラスの団結を強めることにつながっているのが、年に2回行われる「牛乳パック早開き大会」。全校各クラスから選抜された代表児童が、牛乳パックを素早くきれいに開くことを競い合う大会である。この大会があるために、日々の牛乳パック開きにも前向きに

取り組めるようになるほか、大会はクラス全体が一つにまとまって代表児童を応援する行事となっている。



牛乳パック早開き大会の様子

効果 楽しみながら 作業効率もアップ

「牛乳パック早開き大会」により、子供たちの牛乳パックを開く作業は「職人技」と呼べるほど素晴らしいものになった。リサイクルするためにはただ収集するだけではなく、大量のパックを重ねる必要があるが、きれいに早く開くことが、スムーズな回収作業につながっている。

また、全校で楽しみながらエコにつながる取組ができており、低学年の児童も上級生の姿を見ながら、そのような意識が自然と根付くようになっている。



牛乳パック早開き大会の様子

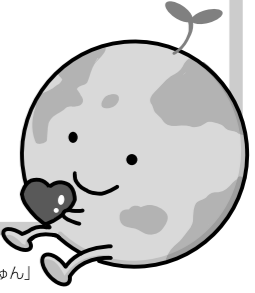
広げよう つなげよう 環境学習の輪



実施校からメッセージ

「一つひとつの小さな積み重ねで、大きなことにつながる」ということを子どもに理解してもらい、毎日の生活の中で行動できるように指導することが大切です。例えばエコライフレポートの認定証に「木を〇〇本切らずにすみしました」という記載があります。それが「地球環境にどうしてよいことなのか？」など、その先を教えることも、興味をもたせる方法のひとつだと思っています。

MEMO



未来の札幌を見つめる【環境】イメージキャラクター「ちっせゅん」